

在リテ全竣工ノ一日モ速カナラシコトア

聊カ所懷ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和十七年五月三十一日

道路改良會々長 法學博士 水野鍊太郎

第一回東亞道路技術會議

霞
關
生

日本道路技術協會主催の、第一回東亞道路技術會議は、技術院總裁井上匡四郎氏を會長に戴き、去る五月二十九、三十日の兩日、

名もふさわしい大東亞會館に開催された。

日本本土は云ふに及ばず、滿洲、中華民國の友邦を始め、東亞諸國を代表せる多數の參會者を連ねて、その數凡そ千名。

豫想したことではあつたが、此の盛況振りには、全く轉手古舞をしたよ、と主催者側の嬉しい内輪咄であつた。

片雲も泛べぬ東亞晴に恵まれた第一日。

爽々しい初夏の陽を浴びて、早朝來陸續と參集の會員に、定刻前既に超過員。

午前八時三十分、總會開會。

國民儀禮、國歌齊唱、宣誓を経て、開會之辭。

說苑

内務大臣、滿洲國交通部技監及び中華民國建設總署督辦の祝辭

の後、九時二十分より特別講演に入る。

(一)自動車國策と道路交通國策 金子源一郎氏

(二)東亞に於ける道路政策と自動車工業の動向 浅原源七氏

(三)滿洲國の國防幹線道路計畫 町田義和氏

(四)大東亞の道路問題 三浦七郎氏

(五)國土計畫に於ける根本思想 田邊忠男氏

(六)國土計畫に於ける都市問題の動向 沼田征矢雄氏

會場正面には、日章旗を中心に、東亞友邦の各國旗が、和かに流れ入る陽光に輝き、千名の會員全神經を耳に染めて寂たる中に、烈々の舞は、刻々熱を帶び力を加へた。

正午、特別講演を行へる。

午後一時よりの部會は、四部に分て同時に進められた。

第一部會は、自動車道に關する部會。第二部會は、道路の地理的特異性に關する部會。第三部會は、工法、構造、材料に關する部會。第四部會は、道路幹線網、國土・都市計畫に關する部會で、提出された論文、報文數九十四。

粒撰りの各論説は、講演者の自信と熱意とに依つて、一語一語、會員の脳裏に刻み込まれた。

他方、飛行場鋪装及び幹線道路網の二座談會が行はれたが、部會、座談會のいづれも、午後八時を過ぎて終了した。

第二日は、各部會及び座談會の結論を討議作成の後、總會に入つて、之を決定し、なほ次の如き決議が行はれた。

決議

部會提出

本會議ハ、各部會ノ結論ニ基キ、大東亞共榮圈確立ノタメ、左

記事項ノ重要且緊急ナルヲ認メ、之ヲ實現ヲ要望ス

一、自動車ト道路トノ基本方針ノ確立並ニ之ニ基ク道路建設ノ計畫的遂行

一、樞要動脈幹線タル自動車道ノ建設

本會議ハ、大東亞ノ道路建設技術ニ關シ、左記事項ニ付申合セ
ラナス

一、大東亞ニ於ケル各地域ノ地理的特殊性ノ差著シキニ鑑ミ
、濕原、砂原、黃土、紅土ノ各地帶並ニ未開山岳地帶ニ於
ケル道路工法ニ關シ一層ノ研究ヲ期ス

一、道路材料ノ節約並ニ現地材料ノ活用ニヨル新工法ニ關シ
一層ノ研究ヲ期ス

會議事務局提出

一、東亞道路技術會議ヲ存續ス

二、東亞道路技術會議事務局ヲ設置ス

三、東亞道路技術會議規約ヲ制定シ之ヲ運用スル爲委員會ヲ

設置ス

四、事務局長、並ニ右委員ノ指名ヲ第一回東亞道路技術會議

會長ニ一任ス

五、次期會議ヲ左ノ通開催ス

時 期 昭和十九年

場 所 满 洲 國

斯くて、開會式に移り、二日間の熾れる熱誠を 聖壽の萬歳に
込めて、午前十一時半、總會の幕を閉ぢた。

午後は、有樂座に於て、公開講演會を開催。

陸軍報道部竹田少佐の講演は、事局に對する認識を深め、音樂
舞踊に耳と目を楽しめた會員は、續いて夕五時より、小石川後
樂園の園遊會に至り、江戸時代の高雅な名園を賞でつゝ、更に腹

をも湛能させ、胸をくつろげて歡談の一時を過し、やがて、西室の茜色に染る頃、盡きざる和氣を惜しみつゝ散會した。

大東亞戰爭最只中の帝都に、斯くも盛大に滑かに、會を進め得たことは、一に、御稟威の下、皇軍の威力に外ならない。茲に、第一歩を踏出した東亞道路技術會議は、全力を致して技術報國の道に邁進せねばならぬ。

内務大臣の祝辭左の通り

祝辭

本日茲に日本道路技術協會主催の下に第一回東亞道路技術會議を開催せらるゝに方り、一言所懐を述ぶる機會を得たるは予の欣快とする所なり。

惟ふに今次大東亞戰爭は米英兩國と蒙端を開きてより僅か半歳、海陸廣袤幾千粧の戡定將に成らんとし、大東亞諸地域に於ける建設戦は、茲々本格的段階に進まんとす。

今や雄渾なる大東亞建設の遂行に方り、速に國土計畫的見地に立ちて、大東亞の廣域を包摶し、道路交通並に都市建設の方向を歸一し以て、戰略據點の確保に、重要資源の開發に、物資の支流、生産力の擴充、其の根底を培養すること當面喫緊の要務にして、建設技術人の力闘に俟つこと切なるものあり。

此の秋に方り、廣く大東亞各域に挺身せらるゝ斯道の權威相寄りて

會議を進むること其の意義極めて大なるものあるべし

宜しく各位は本會議に於て、其の該博なる知識を啓開し、豐富なる経験を披瀝して相互研究を遂げ、克く廣大なる大東亞各域に於ける特殊事情を克服し、貴くに八紘一字の大理想を以てし茲に一貫せる建設技術方策を探究把握せられ、身を以て之を實踐し、曠古の大業完遂に寄與せられんことを切望す

一言を述べて祝辭とす

昭和十七年五月二十九日

内務大臣 湯淺三千男

道路改良會
振替貯金
口座番號 一九〇一六八番